

会話性

会話の3種類

スピーチの特徴

- 自分の思いを他人に伝えるための一方的なコミュニケーション
- 朝礼での話やプレゼンテーションなどが該当
- 事前準備が可能で、練習により上達できる

議論・説得の特徴

- 相手に自分の思いを納得してもらうための双方向的なコミュニケーション
- 相手の立場や思いを理解する必要がある
- 理解力、説明力、説得力が求められる

日常会話の特徴

- 話すこと自体が楽しい、自然な会話
- 練習や訓練ではなく、生まれつきの能力と考えられがち
- 実際には、誰もが得意というわけではない

会話性は日常会話で測っている

日常会話に焦点を当てる理由

- スピーチや議論説得ではなく、日常的なコミュニケーションを評価
- 自然な会話の個人差を測定することが目的

日常会話の具体例

- 友人同士のカジュアルな会話
- 情報交換や雑談など、その場で思いついた話題

会話性の高低による特徴

高い会話性の特徴

- 話したい意欲が強く、話すこと自体が快感
- 話題が次々と変わり、止まらない傾向がある
- 他人の話を聞くのが苦手になりがち

中程度の会話性の特徴

- 適度な話す意欲と聞く能力のバランスがとれている
- 話したいことを話し、他人の話も聞ける
- 話題ごとに結論を求める傾向がある

低い会話性の特徴

- 自分から話すことを苦痛に感じる
- 他人の話を長く聞くのも困難
- 仕事など必要な場面では話せるが、プライベートでは話さない傾向がある

会話性尺度の注意

仕事とプライベートでのギャップ

- 会話性が低くても、仕事の様に目的のある会話には影響が少ない
- 社会生活とプライベートでの会話スタイルの違いを説明できる

会話性の重要度

- 日常会話の能力が親密な人間関係を築くときに重要
- 個人の総合的なコミュニケーション能力を評価する上での重要な指標となる